

2704m

栗原一郎

▼一九八六年二月二日(由)

一九八六年二月二日(由)

▼権現岳

▼後藤隆徳

栗原一郎

▼コースタイム

二月二日(由) 三島八時五〇分

— 天女山登山口十二時一五分

天女山十三時〇〇分、前三ツ頭

直下着宮地十六時三〇分

二月二三日(由) 起床三時、ベ

又登五時、前三ツ頭五時二〇分

三ツ頭六時十五分、権現岳

七時三〇分、三ツ頭八時三〇分

ベ、ス、九時四五分、天女山

入口十一時三〇分

二月、この時期にいい山に行きたいとねらっていた。後藤さんと

急にはなしがまとまり、日程と山

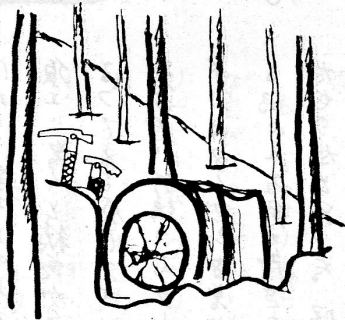
の難難度などの点から権現岳に決

定……せっそく装備などをまとめ

準備完了。車は一路ハク岳とめ

す。

天女は快晴。車を天女山入口の



樹林帯の深い雪のなかに  
私たちは暮らした。

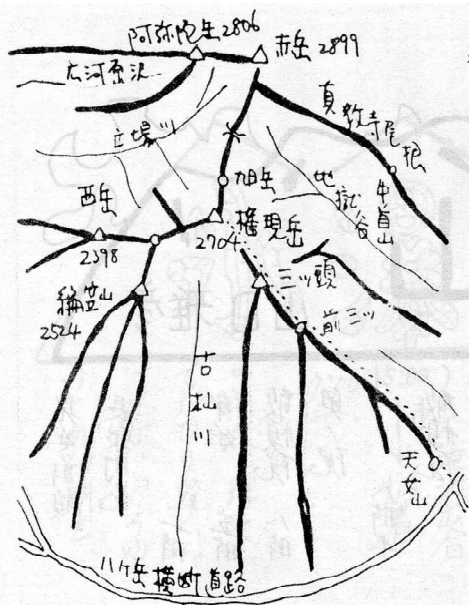
路上脇に止める。「いよいよ」との

感じどつり熱いあまっさサイドブ

ブレーキをカハッぱい引いてしま

が、防止の急サイドは引か

ないほうがいい……と後藤さんよ



り教をらゆり。行く手にベツタリ  
と雪をつけたハヤ玉の峰々。足も  
とはスキーの跡が残っている。モ  
よりは登ゆるところまで登り、前  
三ツ頭付近で葛登しようなどと説  
しながら行く。ひとりの登山者  
が下りてくる。彼は権現に行つて  
来たようだが、彼の説によると  
「雪が深くてラッセルがたいへん。  
三ツ頭手前のふきだまりが越えら

いずら引き返した。パーティがあつた  
たのの事、肩持ちが急にひきし  
まる。かなり寒さがまぶしいと感  
じる頃、私たちは前三ツ頭手前の  
樹林の中に戻る。

寒さでまいったく眠れないまま、  
午前三時になつてしまつた。身支  
度を整えいざ出発。しかし外は痛  
い程つめたくテントから出るのに  
は少々からず勇気が必要だ。雪の

深い樹林帯の中はワカン  
をばさ、ワラストしたとこ  
ろはアイゼンを刺かす。最  
初からワカンとアイゼンと  
を併用する事にした。  
山頂付近は強風が吹いて  
いるらしく雪煙が舞つてい  
る。赤岳、阿蘇陀生も見える。

が、やけに人の気配を感じない静  
かなハク岳だ。山頂直下の岩壁の  
基部をトウバーとする箇所があり  
足元からズルズルと雪崩がこい  
まう。古いヤチ所であつた。佐藤さ  
んが様子を見ながら先行し、向を  
あけて私が続く。古しだが、足が  
雪の中に在るの音が、地につい  
ていない感じで緊張した。

山頂はとにかく寒い。下りて又  
あの個所を通過するまづは気がぬ  
けない感じ。  
テントを撤収し、下る程にまた  
たかくなつてくる。二目とはい  
え里は春の気配。日差しが強く、麓  
が露やけしていろのが自分でもか  
かるようだ。行つてきたまづがにや  
かに胸の古かにもろが、こきた。

